長岡を楽しむ家。

公益社団法人 新潟県建築士会が主催する新潟建築賞設計コンペ。令和６年度は長岡市にフォーカスし、地域の個性を活かし楽しむ住まいのアイデアを募集しました。その中から入賞した５作品をご紹介します。

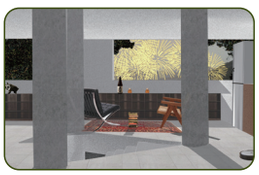


審査員長
建築家
河内 一泰

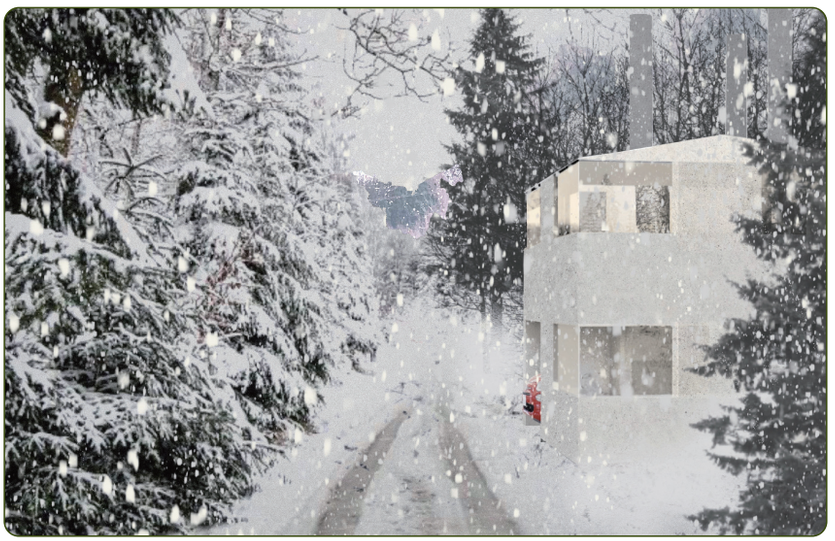
大賞 『越後の三柱室』

柏﨑 健汰 （組積研／東京都市大学大学院）

この小住宅はデジタルデトックスを目指した「長岡を楽しむ住宅」である。必要な食料と本を携え、この住宅に移動する。三つの柱が出迎える。地下 15m まで掘られた、地中熱を取り入れたヒートパイプを内部に有する RC パイプである。この RC 内部のヒートパイプは打設時には、コンクリートの温度調整のために用いられ、竣工後は、冬季に地下熱をもたらす設備となる。







審査員長より

竪穴式住居のように、土と建築のつながりを形にした建築です。人間と土の初源的な関係に着目した点がストーリーとしての広がりをつくりました。良い建築とは、歴史からディテールまでつながっている建築だと私は考えています。この作品にもそのつながりを感じました。

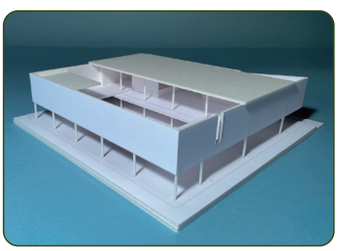
優良賞 『長岡の家』

山口 賢 （株式会社ビームスタジオ）

田園や山々の風景の中に都市景観も広がる長岡市の場所性を鑑み、プライバシーの確保と同時に、遠景を借景し、近景を遮蔽、田園の景を切り取る壁を地上 2m に定位させ、生活の場を稲穂の上に展開する。壁で囲われた敷地全体が生活の場となる。

審査員長より

田んぼへの接地を最小限にして家を浮かせることで風景と建築をパラレルに置いているのが面白いと思います。風景を取捨選択する建築の形として外壁の帯の幅がやや大きいと思いますが、ピロティや入子状の平面など、この風景ならではの建築であると思います。



優良賞 『積層の九十九折り』

加藤 佑翔・三井 梨丘 （新潟工科専門学校２年）

長岡の伝統と文化、土地を感じ楽しむことを目的とした、小国和紙工房と移住者のための集合住宅。おぐに森林公園に残された九十九折りのゴーカートコースに、建物を重ねるように配置する。九十九折りの道は、人と人、歴史や文化をつないでいく。

審査員長より

壇状の地形ではなく、元ゴーカートコースの九十九折りの地形から建築を考えた点が作品のオリジナリティです。くさび状の壁は居室の幅を変化させ視線の向きや住宅と工房の混じり方を多様にしています。屋根も考えればもっと良い建築になったと思います。



入賞 『水積もりて川を成す』

熊谷 侑・小澤 鈴 （新潟工科専門学校２年）

長岡駅から車で 20 分程の場所にある長岡市妙見町には、山に囲まれた棚池が広がる。雪が積もった景色も美しく、四季を楽しめる。ただし、この場所は土砂崩れが起こりやすい。この素晴らしい景色を災害から守り、地域の魅力の一つである錦鯉を間近で見られる住居兼民宿を提案する。



入賞 『一樹の縁、終雪を待つ』

安田 萌花 （新潟工科専門学校２年）

雁木をコミュニケーションの場として敷地に拡大し、境界線をほぐす。各住戸を取り囲む雁木により、住戸が「個」で完結せず、緩やかなグラデーションのような交流が生まれる。雁木から生まれる交流と、雪かきにより生まれる交流。二つの起点と共に谷内通りの雁木を再構築する。



2025/3/6

令和６年度新潟建築賞設計コンペ　講評

審査員長　河内　一泰

大賞　越後の三柱室

縄文時代の竪穴式住居や民家の土間など、土と建築のつながりをかたちにした建築です。地中１５mまで届く３本の柱は２０度という地中の安定した温度を地上へ供給する設備でもあり、建築の主要な構造でもあります。地域ならではの建築の形を問うこのコンペにおいて、地域の固有性よりも人間と土の初源的な関係に着目した点がストーリーとしての広がりをつくりました。

良い建築とは、歴史・風景・配置・外観・内観・ディテールというように大きなものから小さなものまでつながっている建築だと私は考えています。ディスアーバニズムの話や敷地選び、ヒートパイプの設備、３本柱の構造、非構造の外壁と開口、四角の中に三角が入る平面計画など、一貫性のある建築だと感じました。屋根まで突き出た柱が融雪を兼ねているのも良いと思います。この作品の延長に設備的な柱ではなく内部を持つ空間的な柱による建築を想像しました。

優良賞　長岡の家

田園の風景から市街地の風景を引き算した建築です。水平に広がる風景に対してリボン状の壁で囲い斜め下と斜め上に開く形をしています。田んぼへの接地を最小限にして家を浮かせることで風景と建築をパラレルに置いているのが面白いと思います。パネルと模型は最小限の表現で想像させるプレゼンテーションでした。風景を取捨選択する建築のかたちとして外壁の帯の幅がやや大きいと思いますが、ピロティ形式や入子状の平面計画など、この敷地の風景ならではの形をもつ建築であると思います。

優良賞　積層の九十九折り

九十九折りの地形に対して壁をくさび状に配置した建築です。通常の斜面地での建築の造成は壇状になりますが、元ゴーカートコースの九十九折の地形から建築を考えた点がこの作品のオリジナリティです。住宅と工房を微細なスキップフロアで配置し元ゴーカートコースの共用動線を重ねる形式は面白いと思います。くさび状の壁は居室の幅を変化させ視線の向きや住宅と工房の混じり方を多様にしています。屋根も九十九折の地形から考えればもっと良い建築になったのではないかと思います。

全体講評

地域の建築を考えることが新しい建築の可能性を広げる時代だと思います。私自身が抽象的な建築から具体的な建築へ興味が移ってきている事もありますが、固有の風景だったり、材料や構造から生まれる空間に魅力を感じています。固有の条件から個別解をつくる事を超えて新しい建築の一般解になり得るかという課題について、今回のコンペでたくさんの作品を見て考えさせられました。貴重な機会を頂きありがとうございました。